

[第3号議案]

3-1. 2026 年度事業計画書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業1：一般社団法人としての運営
5. 実施事業2：一般社団法人としての財務運営
6. 実施事業3：将来構想
7. 実施事業4：DEIM 運営
8. 実施事業5：企画
9. 実施事業6：国際連携
10. 実施事業7：セミナー・講義
11. 実施事業8：産学連携推進
12. 実施事業9：情報システム
13. 実施事業10：広報
14. 実施事業11：論文誌編集
15. 実施事業12：表彰
16. 実施事業13：ハラスメント防止・DE&I 推進

2026 年度事業計画書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2026年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う6年目となる。2021年度には各種規程を制定し、一般社団法人としての活動を開始した。2022年度には役員を改選し会長が交代したのに伴い、委員会構成を整理し、新しい体制で学会活動を実施した。2023年度は、より良い活動を目指して必要な制度改正、内規の整備を行い、さらなる学会発展を目指す方向性、活動について議論した。2024年度は役員改選を行い、委員会体制を刷新し、新たな活動として若手活性化、会員交流に焦点をあて事業を推進した。2025年度は、2024年度の委員会体制を維持しつつ、それぞれの活動を改善しながら推進した。2026年度は、役員改選を行い、委員会を統合・廃止により整理する。また将来構想委員会を設立し、中長期を見据えた学会の方向性を検討する。これにより、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行っていく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

2. 会員数について

2021年度の定時総会までに、前身である任意団体日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を定時総会が開催された時点での会員とした。その後、正会員、学生会員、維持会員ともに順調に増加している。それに加えて、2021年度よりDEIMの参加者はDBSJ会員となることのできる特典を享受できるようにしたことにより、正会員数が2022年度は822名、2023年度は895名、2024年度は944名、2025年度は1022名と会員が増加した。

2023年度定時総会で定款を改定し、正会員を第一種と第二種に分割し、従来のフルアクセス権付正会員を第一種、フルアクセス権なし正会員を第二種に移行した。従来DBS

研、DE研登録者はフルアクセス権付だったが、その特典を無くし、第一種正会員は年会費を支払うこととした。ただし、DEIM参加者は翌年度の年会費を免除する。これにより、その年度の年会費を支払ったか、前年度のDEIMに参加した正会員が第一種正会員となる。2025年4月にDEIM2025参加者から第一種正会員、学生会員への登録作業を行った。2025年6月に、DEIM2025に参加せず、2025年度の年会費を支払わなかった第一種正会員69名を第二種正会員に変更した。また、学生会員でメールアドレスが不達となる会員176名の退会処理を行った。

2026年2月28日から開催されたDEIM2026では、2025年度と同様に会員価格で参加する条件として、事前に会員となることを徹底したため、参加申し込み前の入会が増加した。

名誉会員は、2024年度までに16名任命されていた。2025年度は、功労賞受賞者で既に退会されている方を探索し5名任命した。さらに2025年度功労賞受賞者2名を任命した。

維持会員は、2025年度総会後に3社入会したが、1社退会した。

以下に、2021年度から2025年度まで各年度の総会時点と2025年度末（2026年3月末）時点での会員数を示す。

会員種別	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2025年度末
正会員	484名	822名	895名	944名	1022名	1024名
第一種				419名	416名	342名
第二種				525名	606名	682名
名誉会員				15名	16名	23名
学生会員	74名	503名	750名	989名	1203名	1128名
維持会員	21社	26社	26社	24社	24社	26社

今後もDEIM参加者がDBSJ会員となることができる特典を継続するとともに、セミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める。

3.1 2026年度 定時総会

2026年6月20日(土)に開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とするが、必要に応じてリアル会場を交えたハイブリッド開催を行う。

理事会は年度内に6回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。
各種委員会は必要に応じて開催し、諸活動における諸事項を審議する。

4. 実施事業1：一般社団法人としての運営（定款第4条第1項8号）

担当：総務委員会

総務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

活動概要では、今年度の改善項目を挙げている。

【活動概要】

4.1 会員・会費制度の継続的見直し

2023年度に改正した会員・会費制度に則った会員運営並びに会費徴収を遂行するとともに、継続的な見直しを実施する。

4.2 委員会や組織の構成の継続的見直し

定款第4条に示す本会が推進すべき事業を円滑に進めるため、委員会や組織の構成を随時見直し、期中であっても柔軟に対応できるよう、必要に応じて委員会や組織の構成を変更していく。その対応をするための予算を計上する

4.3 事務局業務の円滑な遂行

事務局業務を円滑に遂行するため、事務局業務の一部委託を継続する。

DBSJ最大のイベントであるDEIMの事務局支援体制を検討する。

また、専門的な知識が必要となる課題を解決するため、必要に応じて専門家への業務委託を実施する。

4.4 代議員選挙・役員選挙の実施プロセス改善

代議員選挙、役員選挙の手続きを内規として制定することで、選挙が確実に実施されることを目指す。

4.5 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第4条第1項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めていく。

5. 実施事業2：一般社団法人としての財務運営（定款第4条第1項8号）

担当：財務委員会

財務委員会は、一般社団法人日本データベース学会の財務運営を円滑に進めることを目的に活動している。日常業務を効率よく推進すると同時に、よりよくするために継続的に改善している。

【活動概要】

5.1 会計業務の継続的見直し

一般社団法人日本データベース学会は、2023年度に消費税課税業者となった。さらに、2023年10月からはインボイス制度、2024年1月1日からは電子帳簿保存法が施行されたため、外部の税理士法人による定期的な内部会計監査を実施している。今年度も必要に応じて会計業務の継続的な見直しを実施する。

5.2 予算計画策定

年度末（2027年3月末）までに、2026年度予算実行状況を踏まえ、2027年度事業計画を実施するための予算案を策定する。

2025年度は運転資金の繰越金が40,000千円を超える。繰越金は年間収入程度が適正であると考え、20,000千円を事業積立金に移行する。

国際会議準備金、事業積立金で、当面支出予定がない預金を定期預金とする。2026年度は、国際会議準備金から10,000千円、事業積立金から25,000千円を定期預金とする。

5.3 財務運営の日常業務

一般社団法人日本データベース学会の財務が健全に運営されるよう定常業務を着実に行う。

1. 予算執行状況を管理し、必要な予算が適切に使用されていることを管理する。
2. 各委員会から予算外の経費が要求された場合は、理事会に諮り、承認を得る。
3. 日々の入出金処理を着実にを行い、会計システムへ登録、収支報告書の更新を随時

行う。

4. 理事会で収支報告を行う。
5. 四半期毎に、税理士法人による内部会計監査を実施し、不具合が指摘された場合は速やかに訂正し、理事会で報告する。

6. 実施事業3：将来構想（定款第4条第1項8号）

担当：将来構想委員会

本事業の目的は、日本データベース学会の将来に向けた持続的な発展とコミュニティ活性化を実現するための基盤を構築することである。若手活性化委員会および会員交流委員会の取り組みを継承・発展させつつ、若手研究者支援、会員間の交流促進、学会の価値向上と会員増に向けた施策の検討を行う。また、学会内で新たに活動する研究会の企画・設置を含め、多様な研究者が継続的に参画できる環境を整備することで、DBコミュニティ全体の将来像を描き、その実現に向けた戦略的取り組みを推進する。

【活動概要】

(1) 国内研究イベントにおける交流会の開催

研究発表セッション終了後にアルコールの提供を伴う交流会を開催する（アルコールの提供量を制限するなどハラスメント事案にならないよう最大限の注意を払う）。また、交流会においても、会員交流促進の重要性を参加者に共有し、DBSJにおける会員交流の在り方についても意見交換を行う。本件に関しては、DBS研やDE研とも連携する必要があることから、企画委員会とも連携しながら検討・実施する。

(2) DEIMにおける会員交流イベントの開催サポート

DEIM オンサイト企画時のケータリングサービス等をDBSJがバックアップすることで、DEIMにおける会員交流イベントの継続的・安定的な実施をサポートする。本件は、DEIM内で実施するイベント企画であるためDEIM運営委員会とも連携しながらサポート方法について検討する。

(3) 研究会設置に関する検討および試験的運用

本学会正会員が発起人として立ち上げる研究会設置に関する検討を行うと共に試験的な運用を行う。各年度内の時限的な設置とし、会場費や講演者招聘費等に使える運営費（10万円程度）を補助する。年度内に最低1回の研究会の実施、もしくは本会が主催または協賛する研究イベント（WebDBやDEIMなど）におけるスペシャルセッション

ョンの実施を義務とする。運営においては、DEIM 運営委員会および企画委員会と連携しながら検討する。

(4) 若手研究者に魅力ある会員特典の検討

本学会の第一種会員の増加（減少抑制）を実現するため、大学および大学院卒業後の若手研究者にとって魅力ある会員特典を検討する。第一種会員の若手研究者に魅力ある DEIM イベント（ネットワーキング）、学会が認定するデジタルバッジ（ラベリング）、DEIM コメンテータへの推薦など、魅力ある会員特典について幅広く検討する。

(5) その他日本データベース学会の将来に向けた検討

日本データベース学会の将来に向けた持続的な発展とコミュニティ活性化を実現するための方策について、継続的に検討する。本件は非常に重要な課題であるため、適宜、理事会メンバーとも連携しながら検討する。

7. 実施事業 4 : DEIM 運営（定款第 4 条第 1 項 1 号）

担当：DEIM 運営委員会

本事業の目的は、データ工学および情報マネジメント分野に関する研究成果の発表と議論の場を提供し、研究者間の情報交換および人的交流を促進することである。特に学生や若手研究者を含む幅広い参加者が活発に議論できるコミュニティ形成を重視し、日本のデータ工学研究分野の発展に寄与することを目指す。そのため、口頭発表に加えてポスター発表、招待講演、チュートリアル、ネットワーキング等を組み合わせたフォーラムとして継続的に開催する。開催形態についてはオンラインと対面の利点を活かしつつ、研究コミュニティの活性化と参加機会の拡大を両立する形で柔軟に運営する。

【活動概要】

(1) DEIM2027 の開催：2027 年 2 月末から 3 月初頭の日程で、データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2027）を開催する。

(2) 開催形態：DEIM2026 までの形態を引き継ぎ、口頭発表をオンラインで実施し、その後ポスター発表、招待講演、チュートリアル、ネットワーキング（BoF 等）を対面で実施する直列型ハイブリッド形式で開催する。

(3) 研究発表およびコミュニティ交流の促進：口頭発表、ポスター発表、招待講演、チュートリアル等を通じて研究成果の発表と議論の場を提供するとともに、ネットワーキング等を通じて参加者間の交流を促進する。

(4) 開催日程・企画・発信の見直し：日程構成や発表形式の見直しに加え，DEIM のサブタイトル，関連キーワード，広報方針等について検討を行い，データサイエンスや人工知能を含む周辺領域との接点を意識しつつ，企業を含む多様な参加者に訴求する企画内容へ反映する。

(5) DBSJ アワーの開催：例年通り DEIM 期間中に開催する。

8. 実施事業 5：企画（定款第 4 条第 1 項 1 号）

担当：企画委員会

本事業の目的は，DB コミュニティの発展と会員の活発な交流を促すため，学会としての多様な企画活動を総合的に推進することである。従来のイベント委員会および学会連携委員会の取り組みを引き継ぎ，国内の DB コミュニティを活性化させる各種イベントの企画・運営，ならびに関連学会・研究会との連携強化を図る。SoC や WebDB 夏のワークショップ等の主要イベントの企画・運営支援を行うとともに，DBSJ と他学会の DB 系研究会との協働を促進し，コミュニティの裾野拡大と学术交流の深化に寄与することを目指す。

【活動概要】

(1) ソーシャルコンピューティングシンポジウム (SoC)

DBSJ の研究分野の一つとして，ソーシャルメディアを対象とした研究が多数ある。このソーシャルメディアを対象とした研究交流の場として SoC を開催する。日程は 6 月の 1～2 日間を予定している。プログラムとして，招待講演および一般講演（DE 研として開催）を実施し，DBSJ 総会との同時開催を予定している。さらに，産学連携イベントとしてパネルディスカッションの開催も検討する。

(2) WebDB 夏のワークショップ

毎年 9 月頃に DBS/DE/IFAT の合同研究会として開催しているワークショップである。DBSJ が協賛し，若手研究者によるワークショップ企画もしくはオーガナイズドセッションを募集すると共に開催支援を行う。具体的には，招待講演者招聘費用等の金銭的サポートを行うと共に，会場手配等の事務手続きを本委員会がサポートする。本活動により，若手研究者の負担を軽減しつつ，若手研究者の研究活動活性化に寄与することを目指す。

(3) 若手研究者オーガナイズド研究イベントの研究業績(ジャーナル)化支援

若手研究者が提案・実施する研究イベントを開催した際に，これを提案・実施した若

手研究者をゲストエディタとする DBSJ 論文誌特集号の発行を論文誌編集委員会とも連携しながら支援する。

(4) 学生企画イベントの企画・運営支援

DEIM での併設イベントもしくは単独で開催する、学生企画イベントの企画・運営支援を行う。本イベントを通じて、学生自身が学会で活躍できる機会を提供すると共に、若い世代の要望や意見を把握することで DBSJ 自体の改善を図る。結果として、若い世代の会員獲得にもつなげていく。

9. 実施事業 6：国際連携（定款第 4 条第 1 項 1 号）

担当：国際連携委員会

本事業の目的は、DB コミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、海外の DB コミュニティとの連携を図ることである。国際連携として、ACM との連携 (SIGMOD-J)、および日本と韓国(KJDB)、中国 (NDBC, JSPS A3 関連 WS)、タイ間の DB コミュニティとの連携を深める。

【活動概要】

(1) ACM：SIGMOD-J

SIGMOD-J は ACM SIGMOD の日本支部であるが、DBSJ との一体運営を行っている。SIGMOD-J の目的は、海外のトップ Conference に若手研究者を派遣（もしくはオンライン参加）し、そのトピックを DBSJ 会員に対して報告を行うことにより、DBSJ 会員の若手研究者の育成及び DBSJ 会員の最新研究事情の理解である。2026 年度は 3 回の開催 (ICDEorWWW, SIGMOD, VLDB) を予定している。

(2) 韓国：Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

韓国 DB コミュニティと日本 DB コミュニティとの交流を目的とし、毎年日韓交互にオーガナイザーとなり秋に開催している会議である。2026 年度は韓国がオーガナイザーとなり秋頃に開催を予定している。

(3) 中国

China Computer Federation (CCF) の Technical Committee on Databases (TCDB) と 2025 年 6 月に再度締結した MOU に基づいて交流活動を行っている。これまでに中国の National Database Academic Conference (NDBC) への DBSJ メンバーの参加および併設ワークショップ

ップの開催, IEEE BigData2025 における併設ワークショップの開催, DEIM2026 における併設ワークショップの開催, などの活動を実施した. これらの活動は JSPS A3 フォーサイトプログラムとも連携しながら実施している. 2026 年度は, 10 月 16 日~18 日に上海で開催される NDBC への DBSJ メンバーの参加, BigComp2027 等の国際会議における併設ワークショップの実施, DEIM2027 への中国側メンバーの参加などを予定している.

(4) タイ

タイの DB コミュニティとの連携について, 具体的な連携イベントの検討および連携を開始する.

10. 実施事業7: セミナー・講義 (定款第4条第1項1号および7号)

担当: セミナー・講義委員会

本事業の目的は, DB 関連分野の各項目について, その道の第一人者ならでの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し, 大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である. また, 研究者や技術者がデータを利活用する際に必要となる法的な課題や倫理的な課題を踏まえたデータ利活用推進支援のセミナーを実施する.

【活動概要】

これまでの本事業の経験および DB シラバス関連調査事業の結果を踏まえ下記を実施.

- (1) 講義コンテンツの作成と配信 (年3~4回)
- (2) 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
- (3) タグ付けや講義間関係などの整備と公開
- (4) 講義コンテンツ検索のためのインデックス作成
- (5) コンテンツを利用した勉強会等派生イベント, 他の活動(DEIM等)への接続性の検討
- (6) 法的課題や倫理課題を踏まえたデータ利活用セミナーの実施 (年1回)

11. 実施事業8: 産学連携推進 (定款第4条第1項3号)

担当: 産学連携委員会

本事業の目的は, 産学間, さらには産産間における技術的な情報の共有, 人的な交流を促

進することで、データ工学に関連する産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータ、あるいはアカデミアにおける研究テーマになりうるような課題を提供し、それらを活用頂くためのプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流を図る。

・株式会社 東芝：GridDB Enterprise Edition

(2) データ提供型アカデミック支援プログラム (IDR ユーザフォーラム)

DBSJ 維持会員企業ならびに国立情報学研究所 情報学研究データリポジトリ (以下、IDR) に参画している企業より希望者に対し実データを提供し、実データを使った研究を支援する。本プログラムの参加者は、研究テーマを自由に設定し、例年秋季に開催される IDR ユーザフォーラムにて成果を報告する。また同フォーラムにおける優秀な発表に対して DBSJ 特別賞を授与、副賞として同年度の DEIM に招待、口頭発表の機会も提供する。

(3) 産学マッチング促進プログラム

DBSJ 主催のイベントにて、産学連携を促進するための取り組みを実施する。

①人的交流に関するパネルディスカッション (6月の SoC2026 を想定)

産学双方の有識者を招いたうえで、インターンシップ等の人的交流を促進するにあたっての課題点、アイデア等を題材としたパネルディスカッションの企画・実施

②学生のキャリア設計に資するイベントの実施 (3月の DEIM2027 を想定)

学生企画と連携をし、主に学生や若手研究者のキャリア設計に資する題材を扱ったイベントの企画・実施支援を行う。

(4) 維持会員向けフォローアッププログラム

DBSJ 維持会員間のノウハウ共有、および DBSJ 維持会員企業の DBSJ コミュニティ活用の加速を目的として、主に新規で DBSJ 維持会員になられた企業を対象としたフォローアッププログラムの設計及び運用を実施する。具体的には、維持会員側のニーズを伺ったうえで、DBSJ コミュニティの研究者とコミュニケーション、関係性構築のサポート、共同研究先・インターンシップアプローチ先の紹介等を行う。

1 2. 実施事業 9：情報システム（定款第 4 条第 1 項 6 号）

担当：情報システム委員会

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。

【活動概要】

本会 Web ページや会員データベースの安定的な運用をはかる。

- (1) Web・会員 DB の運用・維持
- (2) メーリングリストの移行

1 3. 実施事業 1 0：広報（定款第 4 条第 1 項 2 号）

担当：広報委員会

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

【活動概要】

・ News Letter の刊行

- (1) 発行巻 8 号：Vol. 19, No. 1～8

- (2) 掲載記事計画：

- ・ 定期(隔月)6 号：国際会議参加報告および会議開催報告など
- ・ 企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声
- ・ 企画②：若手研究者の声など

- (3) 本会 Web ページにおいて News Letter のマルチメディア化を促進する

・ Web ページ運用システムの改修の検討

1 4. 実施事業 1 1 : 論文誌編集 (定款第 4 条第 1 項 2 号)

担当：論文誌編集委員会

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) および論文誌「データドリブンスタディーズ」を発行する。

- (1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行
- (2) 論文誌「データドリブンスタディーズ」の発行
- (3) 論文誌に関する課題 (投稿数増加, データアーカイブ) について検討

1 5. 実施事業 1 2 : 表彰 (定款第 4 条第 1 項 8 号)

担当：表彰委員会

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

【活動概要】

2026 年度表彰として、例年通り功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。規程や賞金額の見直しなどについて議論する。フェロー制度について検討を継続する。

1 6. 実施事業 13: ハラスメント防止・DE&I 推進 (定款第 4 条第 1 項 4 号及び 8 号)

担当：ハラスメント防止・DE&I 推進委員会

本事業の目的は、DBSJ 内のダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。

【活動概要】

ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進のためのセミナーやパネルディスカッションを通じた啓蒙活動, さらに DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する.

(1) DE&I 推進事業 (男女共同参画学協会連絡会への対応を含む)

- ① DBSJ 主催・共催イベントにおける参加者の希望に応じた託児および情報保障サポートの提供
- ② 後援予定: IEEE WIE 2026 他

(2) ハラスメント防止委員会

日本データベース学会関連イベントでの行動規範を宣言し Web で公表
行動規範逸脱の通報ルールに関する内規を整備・更新
